

インターバンクの声（2015 年 9 月 24 日）

春のゴールデンウィークに次ぐ9月連休のシルバーウィークも終わり、いよいよ本格的に2015年度の後半戦が始まる。連休中は全く市場のことを忘れ去ると決めた方と、普段と変わらず注視し続けた方がいらっしやったと思われるが、先週金曜日の夕方時点と比べて一番変化した主要通貨はユーロだろう。その時の1.14ドル台から昨日は1.10ドル割れ寸前にまで下落している。もっとも昨日、ドラギ欧州中央銀行（ECB）総裁が、追加緩和策が必要かどうかの判断には時間が必要としたものの、リスクが想定以上になる場合には躊躇なく行動すると述べたことで1.12ドル台には回復している。金曜日、一旦は0.72ドル台後半まで回復していた豪ドルも、全般的に資源国・新興国通貨が軟調だったところへ中国製造業PMIの事前予想を下回る結果から0.70ドルを割り込む場面もあった。ユーロや豪ドルの大きな値動きに比べると、ドル円の値動きは比較的静かだった。週末は今にも118円台に突入しそうな気配だったが、今年の米連邦公開市場委員会（FOMC）の投票権を持つ複数の地区連銀総裁が年内の利上げの可能性を示唆したこともあって、月曜日以降は120円を挟んでの安定した相場展開を見せている。先週のFOMCでも煮え切らない発言を続けたイエレン議長なので期待は出来ないが、今晚の議長の講演と今日、明日の米GDP確報値を含む一連の経済指標発表がさしあたって今週末の締めめの材料になりそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。